

番号	2-3-1		表題	汚泥焼却炉の低温廃熱を利用した補助燃料削減の取組	
内 容	<p>東京都下水道局では、補助燃料使用量を約 2 割削減できる多層燃焼型流動焼却炉や過給式焼却炉の導入などの第二世代型汚泥焼却炉により、焼却炉自体の燃焼効率を高める対策を施してきたが、未だ多くの補助燃料を使用しており、燃料価格高騰等を受けてのエネルギーコストが増加している。</p> <p>そこで、既設の汚泥焼却設備に、これまで活用されていなかった焼却炉燃焼ガスの低温廃熱（300～450℃）のみを熱源として利用する汚泥乾燥設備を南部スラッジプラントに設置することで、焼却時に使用する補助燃料を大幅に削減する取組を行った。</p> <p>本システムは、これまで未利用であった白煙防止の余剰廃熱を汚泥乾燥用の熱として有効利用し、脱水汚泥の一部を乾燥することで、焼却炉に投入する汚泥の含水率を低下させ、補助燃料の削減を図るものである。</p>				
キーワード	焼却炉、補助燃料の削減、低温廃熱、汚泥乾燥設備、エネルギーコスト				
処理区名	森ヶ崎処理区	位置区分	汚泥		
職種区分	設備	施策区分	熱利用		
状態区分	設計	新規性			
実施年度	平成 26 年度	全体期間			
担当部署	施設管理部施設管理課 佐藤崇仁				
発 表	局内				
履 歴	局外	平成 27 年度 第 52 回下水道研究発表会			
調査方法					
関連情報	経営計画 2013、スマートプラン 2014				